

■ 編集委員

赤塚 俊隆 (委員長)

伊崎 誠一 小山 勇 仁科 正実 野村 正彦 松下 祥 御手洗哲也 渡辺 修一
(五十音順)

■ 編集後記

医学会の新体制と、改組に伴いこの雑誌のありかたも見直された経緯については、巻頭で松下新幹事長に説明いただきました。その見直しの議論の中で、研究発表のみではなく広報の場として、大学の行事の記録誌として、研究センターその他からの情報提供の場として、等々の雑誌のあり方に関する意見が出されましたが、新体制での最初の雑誌からそのような理想を盛り込むわけにはいきませんでした。そこでまずは完全オンライン化されていた本雑誌を、主要部局への配布に限定した冊子体も加えることとし、しばらく貯まっていた記事を3, 4号の合併号として発行することになりました。

出来上がったこの雑誌を見た方は、おそらく今までのと大差無いように感じられることでしょう。しかし部数が以前より少なくても、冊子体の復活の意味は大きいように思います。完全オンライン化された後のある号で穂田教授が、「オンライン化は、インパクトファクターの高い雑誌のみに関心が集まるのを加速させるように思います。埼玉医大誌に求められるのは、インパクトファクターではなく、自分の身近な人あるいは教室の情報を得ることではないでしょうか」と編集後記に書かれていました。新体制での雑誌が目指しているのはまさにそれだと思います。同じ建物の同じフロアで働いていても、意外と他の教室の活動は知らないものです。しかし我々の雑誌が例え主要部局のみへの配布だけであっても、手にとって開いてくれる機会がわずかでもあれば、お互いに対するイメージが少し変わることが期待できるでしょう。ただホームページ上に入り口があるだけの状態では、そのようなことが殆んど期待できません。次号からの課題は、そのような機会が与えられたこの雑誌を使ってどのような情報を伝えるか、機会が失われないように開き続けてもらうためには何で興味をつなぎとめるかといったことだと思います。これから編集委員を中心にアイデアを練っていきたいと思いますが、写真好きの私としては、記事に関連した写真をなるべくつけて、活字だけにしないようにしたいと思います。

(赤塚俊隆)

埼玉医科大学雑誌

<http://www.saitama-med.ac.jp/jsms/>

第33巻 第3, 4号 通巻122号 (季刊)

編集責任者

赤塚 俊隆

平成18年12月25日 印刷

平成18年12月31日 発行

発行所

埼玉医科大学医学会

350-0495 埼玉県入間郡毛呂山町毛呂本郷38

電話 049(276)2030 (直通) FAX 049(276)2029 E-mail: igakkai@saitama-med.ac.jp

郵便振替 00540-6-19727

制作

株式会社アテネデザイン

東京都港区三田1-11-19 小宮ビル2階 電話 03(3456)5741 (代) <http://www.atene.co.jp>